

「森は生きている」 2 多様な生物と生態系



「キャ」とターニャの叫び声が聞こえます。「どうしたの？大丈夫？」

私たちがいるのは、^{たてしな}蓼科の森の中、ターニャの方を見ると長いシツポのキツネがターニャの叫び声に驚いたのか、立ち止まってじっとこちらを見えています。

「ターニャ、大丈夫よ。キツネ、ロシアにもいるでしょう？」

「キツネですか。ロシアにもいますけれど野生のキツネを見たのは初めてです」

実際、森で生活していると実に様々な動物たちと出会います。

一番多いのは鹿、親子の鹿が目の前に飛び出すことは珍しくありません。ウサギやいのしし、秋になるとドングリを落とす木のまわりにはリスがよく来ます。

「先生、熊はいませんよね？」と心配そうにターニャ。大丈夫、熊が住むのはもっと北の方ですから。

虫や鳥達もたくさんいます。夏だというのに、毎朝ウグイスが「ホーホケキョ」と鳴きますし、ホトトギスも「トッキョキョカキョク」と鳴きます。

私が鳴き声を真似してみるとターニャは「鳥の鳴き声がそんな風に聞こえるのですか？日本語って面白いですね」と彼女は言います。確かに「擬音語」はその国によって様々で、面白いですよ。

蓼科の森に住む私たちは、自然のまま草木を眺めていると、季節によって実に多くの花が咲き、秋には実がなり、冬になると木のはが落ちる様子を見ることができます。冬の間は雪がつもり、森は眠ったように見えますが、春になると再び木には芽が出て、命がつながっていることが分かるのです。

日本の森には80種類くらいの鳥、そして3400種類もの植物が生きていて、北から南までその場所や気候によって、違う種類の生き物がいるのです。たくさんの生物たちが生きる森、私たちが森を大事にすることで「生物多様性」を守っていくことができます。

「この水はおいしですね」と誰もが言いますが、森の土はスポンジのように雨水をためて、きれいにしてくれています。だからおいしい水が飲めるのです。

「本当に森は生きていますね」と嬉しそうにターニャ、そう森は生きています。深く土に木の根を張って、私たち人間や生物たちを守っていてくれるのです。森を大切にしましょうね！

注)「森林生態系」：鳥類、虫、植物、苔など生物が密接にかかわり合い、共存している。生態系を成立させるためには水、空気、光も必要。

(945 字)

(2020.12 Written by Mizue SASAKI)

<参考資料>

・「森林・林業学習館」ウェブサイト (2020.1.28 確認)

<https://www.shinrin-ringyou.com/>



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示・非営利・継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合

は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.